

高山暮らしインタビュー

(ドイツ・ドレスデンより) ケーニッヒ・パウラさん(24歳)



パウラさんは、ドイツ・ドレスデンから日本の木工業を学ぶ目的で来日し、2020年6月から高山市に住んでいます。高山のことやお仕事のことなど、お話を伺いました。

Q、日本に来たきっかけは？

もともとはドイツで家具工場に就職していましたが、学生の時に知った日本の大工道具「かな」のことから、日本の木工業についてもっと知りたいと思い、日本語を勉強し、2020年に日本に来ました。木の職人文化について学びたい、日本の職人の世界を知りたいと思い、はじめは、北海道旭川市の家具メーカーで数か月働きました。そのあと、優れた木工技術を持つ「飛騨匠」の歴史がある高山に来て、(株)日進木工で7か月ほど研修しました。

Q、高山に住んだきっかけは？

生まれた土地で、親戚もいるドイツのケルンで、毎年家具フェアが開かれています。そこで知り合った名古屋市家具会社の方が、「あなたには合っている土地だと思う」と、高山を紹介してくれました。高山に来てみて、まちの大きさがちょうどいいこと、歴史があること、自然が豊かなこと、都会過ぎず、人との関係が作りやすいことなど、本当に合っていると思いました。

Q、高山の木工業にふれてみてどうですか？

日本の職人さんの仕事は、とても面白く、ドイツには日本の木工技術に関心のある人が多くいます。建具、欄間、障子なども作って見ましたが、日本とドイツでは木材の仕上げ方など全く違います。ドイツでは、サンドで磨きあげラッカー仕上げをすることが多いですが、日本では木の肌を活かしてかななどの道具で塗料なしでなめらかに仕上げます。また、日本の職人は10年以上かけて修行し、個人で働いている方が多いです。ドイツでは3年ほど、いろいろな土地を旅行しながら修行します。

なかなか10年以上も1人の日本の職人さんについて修行することは難しいのですが、短期間でも高山の職人の技術を勉強できる機会があればいいなと思います。特別なプログラムでなくても、職人さん自身が、毎日の仕事で、人に見せるような面白い部分ではないと考えていても、外から見ると、通常の通常の仕事の中に面白い、勉強になると思うことがたくさんあります。私以外にも、みんなに見てほしいと思います。

Q、高山の生活はどうですか？

家具会社での研修が終わった後は、お総菜屋さんでアルバイトをしていました。木工業も文化ですが、食べることにも文化の「ハート」があります。高山の食について、そこで勉強しました。日本に来てから

は、毎日がチャレンジです。最初はスーパーで買い物するにも緊張して、一日が終わるととても疲れていましたが、会社での研修以外も、生活そのものが勉強です。高山に来てはじめはゲストハウスに住んでいましたが、今は高山でできた友人と一緒に一軒家で暮らしており、とても楽しいです。研修が終わった今は、市内を見て回ったりして過ごしています。

Q、高山で好きな場所は？

高山で好きな場所は、宮川の川辺です。そこから見る山や森などの景色がとても好きです。住んでいる塩屋町では、家の周りをよく散歩します。動物や植物などの四季の変化がよくわかります。森の色もすてきですね。キツネやカモシカにも会いましたし、栗やくるみをひろって、料理に使ったりもしています。

Q、これからの展望は？

2021年8月には帰国しなければいけないので、それまで高山の生活を楽みたいです。帰りたくない気持ちもあるのですが、ドイツに戻ったら再度大学でドイツ文化を学びなおし、もう一度高山に来たいと考えています。ドイツやほかの国の人にも、高山をみんなに紹介したいです。



パウラさんと、同居する友人の末松さん、國島市長（R3.6.29）